

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 5 部門第 2 区分
【発行日】平成 17 年 10 月 27 日 (2005.10.27)

【公開番号】特開 2000-81055 (P2000-81055A)
【公開日】平成 12 年 3 月 21 日 (2000.3.21)
【出願番号】特願 平 10-254255
【国際特許分類第 7 版】
F 1 6 D 41/06
【F I】
F 1 6 D 41/06 E

【手続補正書】
【提出日】平成 17 年 9 月 1 日 (2005.9.1)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 0 8
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0 0 0 8】

上述の様に構成するラジアル転がり軸受付ローラクラッチ 1 は、1 対のラジアル転がり軸受 3 a、3 b により、上記保持部材と上記軸 8 とを相対回転自在に支持しつつ、前記ローラクラッチ 2 の働きにより、上記外輪 4 を内嵌固定した保持部材と上記軸 8 との所定方向の回転力のみを伝達する。例えば、図 2 で外輪 4 が固定で軸 8 のみが回転すると仮定すれば、この軸 8 が同図の時計方向に回転する場合には、上記各ローラ 5 がこの軸 8 の外周面から受ける力に基づき、上記各ばね 6、6 の弾力に抗して、上記各凹部 10 が深くなった側に変位する傾向になる。そして、上記各ローラ 5 が、上記円筒状隙間 17 内で転動可能な状態となって、上記外輪 4 と軸 8 との間で回転力の伝達が行なわれなくなる、所謂オーバーラン状態となる。反対に、この軸 8 が図 2 の反時計方向に回転する場合には、上記各ローラ 5 が、上記軸 8 の外周面から受ける力と上記各ばね 6、6 の弾力とに基づき、上記各凹部 10 が浅くなった側にくさび状に食い込み、上記外輪 4 と軸 8 とを一体的に結合して、これら外輪 4 と軸 8 との間で回転力の伝達を自在とする、所謂ロック状態となる。